

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 26 日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3874000353		
法人名	社会福祉法人 御荘福祉施設協会		
事業所名	グループホームみしょうの里		
所在地	南宇和郡愛南町御荘平城2020番地 (電話) 0895-73-1312		
管理者	赤松 直美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	8 月 1 日	評価確定日	9 月 27 日

【情報提供票より】 (19年7月10日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.2 人

#### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有( )円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	280 円
	夕食	250 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		780 円	

#### (3) 利用者の概要 (7月10日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

#### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中にある民家改修型の1ユニットのホームである。故郷に帰ってきたようなほっとする空間があり、ゆったりとした時間の流れる普段着の生活が営まれている。利用者の笑顔が訪れる人を迎えてくれることもうれしい。運営推進会議を上手く活用し地域と密着しているが、地域交流ではなく、「つきあい」を実践している。地区長に「このようなホームは地域に必要である」との認識があることは、ホームのケアが地域に認められた証であり、何よりの言葉である。災害に対しても話し合いや避難訓練が地域の人たちと一緒に進められていることも安心できる。地域の社会福祉資源の核となるような活躍を期待したいホームである。

### 【質向上への取組状況】

<p>▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では地域との交流が改善項目として挙げられていたが、運営推進会議を通して地域の人たちと顔馴染みになり、特に管理者などが今春に参加した地区集会以降つきあいが深まり、良好な関係が維持できている。</p>
<p>▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全ての項目に更なる取り組みを行いたいと記載しており、利用者に対するケアの質向上には余念がない。管理者と職員の話し合いがよくもたれており、ホームの理念にブレがないことも、自己評価に取り組んでいる証である。</p>
<p>▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の議事録からは、回数を重ねる毎に地域の人とのつきあいが深まっていることが分かる。運営推進会議の会長を地区長が担っていることは、会議がホームと地域の相互の話し合いの場となっていることが理解できる。特に災害に備えて避難訓練などを地域住民と一緒に実施していることは、運営推進会議が定着していることを現している。</p>
<p>▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム独自の取り組みとして「日々の暮らし記録」を家族へ渡しはじめてから、家族から「日々の暮らしがよく分かる」「私の知らなかったことが記載されている」などと好評を得ている。これにより家族とより深い信頼関係が構築され、忌憚のない意見を聞くことができています。その意見をホームの運営に活かし、ケアの質の向上に努めている。</p>
<p>▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民との本格的なつきあいが始まったのは、4月から4ヶ月目である。人が人を呼び、地域とのつきあいの広がりを見張るものがある。今後も地域密着のホームとして活動を深くして行って欲しい。</p>

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム みしょうの里

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名 赤松直美

評価完了日

平成 19 年 7 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) これまでの理念を見直し、その人が望むことは何か、その人の思いをどうすれば知る事が出来るか、を職員全員で考え住み慣れた地域で安心した暮らしが行えるよう新たに理念をつくりあげた。  (外部評価) ホームが地域と密着するためには運営理念の見直しが必要であるとの認識から、平成19年5月に職員全員で理念の見直しを行っている。「支えあう仲間と地域との交流を通して生きがい作りに取り組み」という文章通り、地域組織と上手につきあい、地域密着を実践している。	※	今後も、利用者にとって大切なものは何か、を職員全員で模索しながら、理念を見直し、つくり上げていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を常に念頭に置きながら、ミーティングや職員会議で話し合いを持ち確認している。が、職員の意識レベルの差や資質等により取り組めていないと感じる場合もある。  (外部評価) 管理者や職員は理念を言葉だけで捉えているのではなく、「利用者は、口には出さないが我々の心を見抜いている。だから気持ちで取り組む必要がある」との認識がある。その上で、理念を実現しようと話し合いが持たれている。管理者と職員は良好な関係から真摯な話し合いが持たれている。	※	日々、利用者一人ひとりの思いに答えようと努力しているが、時に見過ぎてしまう事もあり、さらに理念の実現に向けて研鑽していきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族には、理念について来訪時に説明し理解していただいている。また、地域住民には運営推進会議や地区集会等でパンフレットを配布しながら説明しているが、充分には浸透していない。	※	今後も運営推進会議や地区集会等を利用し、地域の方々に理念を理解していただけるよう働きかけていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩中や母体である特養発行の機関誌を配布時などに挨拶を交わしたりしている。またホームで咲いた花や頂物のおすそ分けをしたり、いただいたりしている。顔見知りではあるものの日常的に気軽に立ち寄っていただけるまでには至っていない。	※	運営推進会議開催を機に、出席者の方が、ある時はお孫さんと共に、またある時は他のご家族の方と来訪していただけるまでになった。このような関係を大切にしながら少しずつ、周辺に広げていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地区集会に参加させていただきながら、地域の方々との関係づくりに努めている。地区住民との合同避難訓練に於いては地区の方、自ら協力を申し出られ無事終了する事が出来た。  (外部評価) 平成19年4月に行われた地区集会に出席してから、地域の役員と顔なじみになり、地域活動への参加が多くなっている。公民館で行われていた定例の地区カラオケ大会を、利用者が参加しやすいとの理由からホームの離れの多目的室に変更するなど、地域の人々が利用者との交流に積極的になっている例もみられる。	※	今後も地域とのつながりを大切にし、より多くの人達と接する機会を持てるように努めたい。
				※	地域住民との本格的なつきあいが始まったのは、4月からで4ヶ月目である。人が人を呼び、地域とのつきあいの広がりを見張るものがある。今後も地域密着のホームとして活動を深くしていった欲しい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で、また、集会等参加により、少しずつではあるが地域の方々に認知症について、理解をもらっている。そして、要望があれば実習生を受け入れている。	※	今後、さらに地域貢献に向けての取り組みを職員全員で話し合いを持ちながら進めていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を職員全員で行いながら、サービスの質の向上に努めている。また、外部評価の結果を踏まえ改善計画を作成し取り組んでいる。 (外部評価) 利用者へのサービスの質を向上させるには、自らの業務を振り返ることが求められるが、管理者や職員は、自己及び外部評価をその機会としており、真摯に取り組んでいる。自己評価は、管理者と職員全員で話し合って作成されている。	※	今後も自己・外部評価を活かした取り組みをしていき、さらにサービスの質の向上に努めていきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月毎の運営推進会議にて報告。話し合いを行い気づき、意見等いただきサービスの向上に活かしている。 (外部評価) 運営推進会議は8回開催されており、議事録からは回数を重ねる毎に地域の人とのつきあいが深まっていることが分かる。運営推進会議には会長職を任命しており、それを地区区長が担っていることは、この会議が有効に運営されていることの証である。議題には利用者のサービスと直結していることも取り上げられており、運営推進会議の進め方の一つの手本になるような取り組みが行われている。	※	今後も運営推進会議で評価結果を公表し、意見をいただきながら質の確保を図っていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 機会を設け、相談・意見等いただいている。また、町の講演会にも積極的に参加し、サービスの質の向上に努めている。 (外部評価) 地域にはホームが少なく、町の担当者とも顔見知りの関係にある。ホームが地域と交流することにも協力を得ており、良好な関係が構築できている。	※	担当者が代わっても、相談しやすい関係を築いていけるよう働きかけていく。 町担当者にはホーム間の交流を通して地域へ認知症の理解を深める働きかけを行いたいとの要望がある。今後はその事業への協力が求められる。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 南予地区研修会や職員会、また母体の特養での職場内研修会に参加し、理解を深める為の勉強会を行っている。	※	しくみが複雑な為、なかなか理解できにくいですが、今後も定期的に勉強会を行っていく。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 母体の特養で身体拘束高齢者虐待防止委員会があり、毎月参加し話し合いを行っている。またホームでも、職員会で毎月取り上げ、話し合い、虐待防止に向けて取り組んでいる。	※	今後も気づきを大切にしながら徹底的に話し合いを行い、小さなことでも決して見過ごさないよう虐待防止に取り組んでいく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用契約に関する説明書をみていただきながら、時間をとって丁寧に説明し、理解・納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃の利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力を行い、職員全員でその思いに答えようと努めている。が、時に見過ごしてしまう事がある。	※	今後も意見等、出しやすい雰囲気づくりに努め、利用者の思いに答えていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎日1～3行程ではあるが、日常の様子を記録し、毎月、母体の特養発行の機関誌と共にご家族へ渡している。また、状態に応じて電話も利用。金銭管理は台帳に記入し(領収書も添付)ご家族にサインをいただいている。	※	日々の記録については、様子が良く分かると、ご家族に好評の為、今後も継続していく。
			(外部評価) ホーム独自の取り組みとして、利用者の日々の暮らしを2～3行程度毎日記録し、1か月分を家族に渡している。家族からは、「日々の暮らしがよく分かる」「私の知らなかったことが記載されている」などと好評を得ている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には訪問時や電話等で何でも言っていたりするような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望等はミーティングで話し合い、運営に反映させている。	※	ご家族は不満や苦情があっても、お世話になっている、という思いから、なかなか口に出せない心情を汲み取っていく必要がある。
			(外部評価) 家族は「お世話になっているから」という理由で意見や不満を言い出し難いことがある、ということを管理者や職員は十分に承知しており、面会や電話などで家族が切り出しやすい雰囲気づくりに努めている。	※	家族の心情を汲み取ることを目標に努力を重ねているが、実践例などの具体化を行い、他の職員にも教授できるような実践を期待する。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々のミーティングや月1回の職員会議等で、それぞれに意見を出し合い、話し合っている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見や提案を反映させるよう努めている。	※	これからも職員の気づきを大切にしていく。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の思いを出来る限り支えられるよう、利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。	※	利用者と馴染みの暮らしが継続できるような関わりを今後も大切にしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者やご家族との信頼関係を築くためにも、馴染みの関係が第一と考え、職員の移動等は必要最小限に抑えている。  (外部評価) 1ユニットのホームであり、運営法人間での異動もなく、利用者との馴染みの関係が構築しやすい運営体制である。	※	利用者や家族はもとより、地域との交流に於ても馴染みの関係は重要である。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 母体である特養が、毎月実施している研修会には、毎回、ほぼ全職員が自主的に参加し研鑽している。又、他の研修会へも順番に参加し、職員会議で発表。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。  (外部評価) 運営法人の実践研修会が毎月夕方から開催されており、夜勤者以外はできるだけ参加している。GH連絡協議会の研修会にも参加しており、運営者も資格取得には協力的である。	※	今後も、職員一人ひとりの学ぼうとする姿勢を大切にし、質の向上を図っていく。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 母体の特養発行の機関誌を送付したり、広報誌が送られてきたり、また、見学や研修等の受け入れを行いながら、少しでも上を目指す取り組みを行っている。  (外部評価) 研修会などで一緒になる同業者との話し合いで小さなヒントになったり、向上心を高めたりすることがあり、その有用性は承知しているが、地域内にはホームが少なく、ネットワークを構築するまでには至っていない。	※	同町内に他のグループホームがオープンする中、互いに交流し合い、勉強させていただき質の向上に努める。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 日頃から職員の疲労やストレスの要因について気を配り、話を聞きながら職員同士の人間関係の把握に努め、いくらかでもストレスが解消できるように取り組んでいる。	※	今後も職員個々と話し合いを持ちながら、ストレス緩和に向けての取り組みを行っていく。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は個別に面談を行いながら、状態を把握。また、現場へ足を運び、業務の様子を観察している。職員が向上心を持って働けるよう助言や指導を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前に自宅を訪問し、利用者本人とご家族から十分に話を伺う機会を設けている。利用者の様子やその思いを職員会にて報告し、職員全員で受けとめる努力をしている。不安な様子であれば、日中の何時間かを2、3日通所で過ごしていただき、安心へとつなげている。	※	利用者やご家族が不安を覚えないよう、話をよく聴くことが大切。求めているものは何か、利用者やご家族の思いを受け止める努力を今後も行っていく。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前にご家族から十分に話を伺っている。ご家族が求めているものは何か、それに対してどのような対応が行えるか等、ご家族の思いを受けとめる努力をしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、ご本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案等を行い、必要なサービスにつなげるよう支援している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ご本人やご家族に見学してもらう事から始め、場の雰囲気を感じてもらおう。不安であれば、日中の何時間かを2、3日通所で過ごしてもらおう等、徐々に馴染めるような工夫をしている。	※	ご本人・ご家族が、これなら安心して任せられる、と納得されるまでゆっくり話し合う機会を設けている。今後も、徐々に馴染めるような工夫を行っていく。
			(外部評価) 現在までの利用者は、家族やケアマネジャーが訪問し、その後利用者と面談してから入居が決定するというプロセスである。利用者が落ち着かず自宅へ送っていくことを繰り返したケースもあるが、概ねスムーズに生活をスタートしている。	※	新たな取り組みになるが、ホームの離れを利用して地域交流やデイサービスなどを行うことで、今後の利用者は、ホームの雰囲気を知ったり、職員とのふれあい、利用者との交流なども行え、馴染みの関係が構築されてからホームを利用することも可能となるので、一考願いたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として教わる機会が多く、そんな場面では、必ず感謝の言葉を伝えている。今までの人生の中で培って来られた事に対して敬意を払いながら、楽しく、穏やかに生活していただけるように努めている。	※	今後も、利用者の思いを共感しながら、共に学び、支えあう関係を築いていけるように努める。
			(外部評価) 開設後4年目であるが、利用者の状態は維持されており、家事を協働したり、野菜の収穫など共に生活する関係を構築している。また、人生経験の豊富な利用者の一言が職員を元気づけている場面も多々あり、共に支えあう生活の場が築かれている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と情報交換を行いながら、ご家族の思いを把握し、ご家族と共に職員も同じような思いで支援していることを伝えている。	※	ご家族の中には、お世話になっているのだからと、思いを言わない方もいると思うが、来訪時等の情報交換の中で、語られない部分まで知ろうとする姿勢を今後も大切にしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご本人の日頃の状態を1～3行程ではあるが、毎日記録し、ご家族へ報告している。また、年に数回程度ではあるが、ご家族へ呼びかけ、里帰りを支援している。	※	今後も、ご本人とご家族の思いを受け止め、より良い関係が継続できるよう努める。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔から利用している美容院に行き続けている利用者や地域に暮らす馴染みの知人が時折、尋ねて来て、積もる話に花を咲かせたり、思い出の場所に案内したりと関係継続の支援を行っている。	※	入居をきっかけに、今まで疎遠になっていた家族が頻繁に会いに来られ、その利用者に活気が出てきた。そのような人達との関係が継続できるよう、今後も働きかけていく。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格や特徴を把握し、みんなで楽しく過ごせるような場面作りを行っている。また、毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにし、利用者同士の関係がうまくいくように、配慮している。	※	今後も、利用者一人ひとりの個性を尊重しながらも、お互いが助け合い、支えあって生活していけるように配慮する。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 体調低下に伴い、病院や施設に移られた方もいるが、ご家族が近くまで来たからと言って、寄り、話をされたり、また、長期入院により退居された場合、病室に何うなど、関係を大切にしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉だけでなく、表情や態度からも、ご本人の思いを知ろうと、常に配慮している。今、何がしたいのか、その行動は何に向けてのものか等。	※	時に、その思いを見過ぎてしまう場合があり、利用者一人のひとりの声や、声なき声を聴いていくように努める。
			(外部評価) 日々の生活記録を書くことにより、利用者の細かなことも受け止めることが可能になっている。また、記録として残るため、職員間でも共有化が図られており、本人の意向を把握するためにとっても有用な手段となっている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用までに自宅を訪問し、ご本人やご家族等から聴き取るようにしている。利用後も折に触れ、ご本人からどんな生活をしていたかを聴き、後日、ご家族に話した折、初めて知りました、と驚かれることもある。	※	ご本人や家族から聴き取ったことは、たとえ小さなことでも、職員間で共有し、支援の中に活かすようにしている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、できることをしていただきながら、役に立っているという喜びを持って、楽しく、安心した生活が送れるように努めている。	※	今後も、利用者一人ひとりを見つめ、その人らしく、楽しく安心して暮らしていただけるように努める。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 折に触れ、ご本人やご家族からの思いをお聴きし、介護計画に活かしている。3ヶ月毎に、職員会議の議題にもあげ、話し合いを持ちながら、介護計画を作成している。 (外部評価) 介護計画は本人や家族と相談のうえで職員全員で作成されているが、ホームの特徴として地域住民の視点がある。地域の役員がホームを理解しており、協力体制ができています。地域住民が介護計画の作成に直接携わるわけではないが、地域がチームの一員であるという意識で介護計画を立案することができ、計画内容に広がりがある。	※	ご本人のより良い暮らしに向けての介護計画をいろいろな角度から全員で検討していくことが大切。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月毎に、前回立てた介護計画についての評価を行いながら、ご本人やご家族の要望を取り入れながら、見直しを行っている。また、状態変化に伴っての、検討見直しを行っている。 (外部評価) 介護計画は3か月ごと、利用者に変化があった場合は随時見直しを行っている。現在、アセスメント票をセンター方式に見直している最中である。利用者の理解を深めるためには有用と管理者は認識しており、それにより介護計画も策定方法を見直している段階である。	※	常に利用者一人ひとりに目をかけ、ご本人やご家族のその時々を受け止めながら、皆で話し合いを持ち、状況に応じての介護計画を今後も作成していく。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のファイルに状態変化や外出支援等を記録。日々の様子は、1～3行程ではあるが記録している。また介護計画に添っての評価も記録し見直しに活かしている。職員全員が関わりを持って取り組めるようにしている。	※	今後も、状態変化等の日々の様子を個別のケース記録簿に記入しながら、利用者一人ひとりを見つめ、介護計画の見直しに活かしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の方々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) ご本人やご家族の状況に応じて、通院等の対応を行っている。現在、週3回の透析治療の方にも、病院までの送りを職員で対応。ご家族の負担軽減や要望に添っての支援を行っている。 (外部評価) 1ユニットの民家改修型のホームなので、設備的にも人員的にも余裕があるわけではない。しかし、家族支援という視点で利用者の通院介助、送迎などを行っている。今後、利用者の状況で送迎などが増えた場合でも、職員のシフトを工夫するなどできるだけの対応を考えていることは評価できる。	※	ご本人やご家族の状況、要望に応じて、今後も、柔軟に対応していく。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地区や民生委員の方に参加いただきながら、運営推進会議を行い、話を聴いていただく機会を設けている。また、地震時の避難訓練について等、消防署より説明を受ける機会も設けている。	※	今後も、利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、地域資源と協働していく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価)		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応している。利用者の状態に応じて、訪問診療に来てもらう場合もある。 (外部評価) 利用者それぞれのかかりつけ医を持っており、ホームでも継続的に受診できるように支援を行っている。また、ホームの協力医院は定期的な往診を行っており、利用者全般の健康に配慮する仕組みもあり、日常的な医療的見守りは看護職員がかかりつけ医と連携して行われている。	※	今後も、ご本人やご家族が希望する医師や医療機関への受診や通院支援を行っていく。職員が対応した場合は、必ず、ご家族へ受診結果の報告をしている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 地域の認知症専門医への定期受診や来診により、相談し、指示や助言を受けている。適切なアドバイスや処方により、早期に解決出来ている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、母体の特養の看護師も週に1度、来訪し利用者の状態把握に努めるなど、いつでも気軽に相談できる体制を整えている。	※	今後も、協力医療機関や同一法人の看護師へ相談しながら、健康管理に努める。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞い、安心とストレス軽減に向けて支援している。また、家族とも情報交換しながら、回復状況等、速やかな退院支援に結びつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化に伴う意思確認書を作成し、説明を行い、同意をもらっている。	※	今後も状態の変化があるごとに、ご家族の気持ちの変化やご本人の思いに注意を払い、支援につなげていきたい。
			(外部評価) 看護職員の配置や看取り指針の作成など利用者の重度化や終末期に向けての対策は始めている。しかし、利用者の健康状態は維持されており、家族との具体的な話し合いまでにはいたっておらず、職員間でも様子見の状態である。	※	利用者の健康状態が維持できているのは管理者や職員の見守りの賜物であるが、重度化への対応などは早すぎるということはないので、家族を交えての具体的な話し合いを始めて欲しい。また、設備面での対応(改修等)も進める時期に来ていると思われるので、運営者との話し合い等についても期待する。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 今の所、終末期をホームでむかえた利用者はいないが、ご本人の気持ちをご家族を交えてお聴きしている。利用者が安心して終末期を過ごしていけるように、医療機関とも密に連携を図っていく必要がある。	※	今は、終末期について、ご本人とご家族にお聞きしているだけだが、今後は、重度や終末期の対応について、対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を、職員全員で話し合っていく必要がある。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 現在まで、住み替えとなった利用者は、長期入院になられた方がほとんどだが、中では、特養に移られた方もいる。特養でも、本人の状況、習慣や好み等や注意が必要な点など情報を詳しく伝え、また、機会あるごとに、馴染みの職員が顔を見せるなど、住み替えによるダメージを少しでも防ぐよう努めている。	※	今後も、移り住む際には、情報を詳しく伝え、今までの継続性に配慮してもらえるように働きかけていく。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職場内研修会や職員会議の中で、職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	※	今後も、利用者に対して、言葉かけや態度等、尊厳を持って接し、プライバシーの確保に努める。
			(外部評価) こじんまりしたホームのために、会話は筒抜け状態である。そのため職員は全利用者に配慮しながらの会話を心掛けている。利用者間の会話にも積極的に参加し、軌道修正を行う役目を果たしている。職場研修会では、個人情報保護法について勉強会が行われており、プライバシーの確保には余念がない。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 意思表示が困難な方に対しても、職員は希望や好みを把握しているが、些細なことでも、声をかけて、利用者が自分で決めることができる様に支援している。	※	本人の希望や好みを把握しながらも、利用者自身で決定するように取り組んでいく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 参拝や周辺の散歩等、利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、対応している。庭のベンチに座り、空を眺める方もいれば、その辺の草取りをされる方もいる。テレビの時代劇に見入る方もおられる。 (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者に生活を楽しんでもらうということが優先されている。昼食時に、「こんど鰹が揚がったら食べにおいでや」と利用者から誘われるなど、我が家で自分らしく暮らしている雰囲気があった。	※	今後も、利用者一人ひとりの思いに添って、利用者のペースに合わせた支援をしていきたい。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ご本人の好みに合わせて、ご家族が衣服を持参されている。その中には、以前、ご自分で購入された品のいいスカーフやブラウス等もあり、ご本人の好みに合わせて支援させていただいている。	※	よく似合ってますね、と必ず、声をかけるようにしている。今後も、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援していく。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は、職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるような雰囲気づくりに努めている。食事の準備や片づけ等、できる力を活かさせていただいている。 (外部評価) 「この食事は美味しい」と数人の利用者から話しがあった。これは、食材や味付けなどによるものだけでなく、食事を楽しむという雰囲気も重要な要因であり、それが実践されている証である。準備や後片付けなどは、好きで手伝う人、口だけ出す人など利用者の個性が出ていて、自然な雰囲気が心地よい。	※	母体の特養、管理栄養士が献立を作成しているが、利用者の好み、または、頂き物や畑で取れた野菜等を利用し、献立を変更する場合がある
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好品の中で、たばこやお酒をたしなまれる利用者はいないが、利用者の好みに合わせた、おやつ作りをしている。利用者と共に採ったヨモギを利用し、ドーナツやしば餅をついたり、コーヒーを飲んだりしている。	※	利用者の中に透析治療中の方がおり、おやつの方でも、バナナやヨーグルト等、控えなければならず、結果として、その方に合わせる事がほとんどである。
56		○気持ちいい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。夜間は、ポータブルトイレを使用する利用者もいる。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日、入浴前にはバイタル測定し、状態を見て、ご本人に入浴の希望を確認し、入浴していただいている。ゆっくり入浴を楽しんでいただけるよう、温度や湯船にかかる時間等、利用者一人ひとりの好みに合わせている。 (外部評価) 入浴時間は午後からであるが、タイミングや回数は利用者の希望に沿うように行われている。入浴後、職員に髪を乾かしてもらっている利用者の笑顔に信頼関係を見ることができ、入浴支援が利用者との関係構築に有効なものになっていることが理解できる。	※	毎日入浴を行なっているが、時間帯は、ほぼ同じである。利用者や家族からの希望は、今の所ではないが、考慮の必要がある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態を考慮し日中の活動を促したり、夜間は希望により好きな時代劇や歌謡曲等、テレビを見て、気持ちよく睡眠がとれるように支援している。	※	今後も、日中の活動を支援しながら、夜間の安眠が図れるよう支援していきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食事づくりや洗濯物たたみ、畑仕事やペンキ塗り、ズボンの裾あげ等、経験や出来る力を活かせるような場面作りを支援している。野菜作りなど、職員が教わることも多く、ご本人の教える楽しみでもあり、気晴らしにもなっている。 (外部評価) 管理者や職員は、生活は楽しむべきであると考えており、利用者個々の役割は、本人が負担にならないことが重要であることから、柔軟性を持たせている。ふとしたひらめきで外出したり、天候に合わせての活動など、活力が湧く支援が楽しく行われている。	※	その時々感謝の言葉を伝えながら、今後も、利用者一人ひとりにとって、日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものとなるように努める。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことで安心する利用者には、ご家族の協力を得て、少額所持してもらっている。買い物をご自分でされたい方は、少し大目所持。ご家族より、いくらいくら持たせているからと、必ず報告がある。	※	今後は、お金を預っている利用者に対しても、喫茶店等利用した時など、ご本人より支払ってもらえるような支援をしていきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 利用者の希望に添って、散歩やドライブ等、または、庭で過ごす等の支援を行なっている。時には喫茶店でのモーニングコーヒーや大好物の昼食をレストランで楽しむこともある。 (外部評価) 管理者は、豊かな生活を送るためには外出は不可欠であるとの認識から、利用者の希望に応えるだけでなく、積極的に外出の支援を行っている。外食の後にドライブを組み込んだり、買い物の延長でお茶を楽しんだり、外出に小さな喜びを見出す工夫を行っている。	※	利用者のほとんどの方が、数分前の事も忘れられるが、その時々笑顔で、生き生きとされることが大切。今後も希望に添って、戸外に積極的に出かけていく。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年に数回、場所によれば、数年に1回程度の場所への支援を行なっている。ふるさとや温泉、しょうぶ見学等、計画を立て、利用者の思いに添って支援をしている。	※	高齢でもあり、ご本人からの要望も聴き出せない方を車で1時間かかるふるさとへお連れした。ご近所の皆さんが集まり、一人ひとりの名前を呼ぶことが出来た。皆さんは涙を流して喜ばれた。今後も、思い出の場所や懐かしい人たちの所への支援を続けたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望やご家族等からの電話に対しては、職員がダイヤルして利用者へ渡したりしながら、場合によっては、子機を使用し、会話が他の利用者へ聞こえないように配慮している。	※	ご家族への手紙が、メモ用紙に走り書きといった場合でも、大切に、ご家族へ渡す配慮をしている。今後も、電話等プライバシーに配慮しながら支援を行なっていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも、自由に訪問していただき、気兼ねなくすごしてもらえるように配慮している。人数や利用者との関係を考慮し、自室や他のスペースを整えている。時には食事を準備し、利用者、ご家族共にゆったりくつろげたと、喜ばれたりもする	※	今後も、笑顔での応対に心がけ、いつでも気兼ねなく訪問してもらえるよう、そして、心地よく過ごしていただけるよう配慮する。
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 月に1回、母体の特養での身体拘束高齢者虐待防止委員会や定期的に行なわれる職場内研修会に参加し勉強している。また、職員会議でも毎月、取り上げ、職員全員で話し合いを持ちながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。	※	何が身体拘束になるのか、疑問に思うことを勉強しながら、今後も、身体拘束をぜったいに行なわないケアに取り組んでいく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の様子をさりげなく見守りながら、庭に出て行けば、散歩に誘ったり、後から見守りながらついていく等、安全面に配慮しながらの自由な暮らしに向けた支援をしている。  (外部評価) 玄関等の鍵は、夜間の防犯のため以外には掛けられていない。不穏な状態の利用者には、寄り添って話を聞くことや共に外出することなどで、本人が安心できるような支援を行っている。地域の人たちの見守りも確保できており、安心した生活が確保できている。	※	気づかない内に、利用者が外出してしまった場合でも、地域の方より連絡があり、つかず離れずの距離を保ちながら、後から見守って下さったこともある。そういう、地域との関わりを築きながら、今後も、鍵をかけないケアに取り組んでいく。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は、利用者一人ひとりの様子を把握するように努めている。日中、自室で過ごす利用者にも、時間毎に声をかけ確認。夜間も、度々見回りをし、耳を澄ませ、利用者の状態把握に努めながら、安全に配慮している。	※	今後も、利用者一人ひとりの様子をさりげなく見守りながら、安全に配慮していく。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 全てを取り除くようなことはなく、利用者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。すそ縫いなどを希望する利用者には、針の本数を数え、糸、ハサミと共に渡している。	※	利用者の状態を十分に把握しながら、したいこと、できること、にこれからも、配慮していきたい。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ひやりはつとに記録しながら、話し合いを持ち、事故を未然に防ぐための努力をしている。事故につながった場合は、事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討している。家族へも説明と報告を行なっている。	※	今後も、職員全員でリスクや危険について、話し合いながら、事故の再発防止に努めていきたい。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年1回、消防署の協力を得て、母体の特養での救急救命法の学習会に参加している。また、職員会議等で、緊急時の対応について、定期的に勉強会を行なっている。	※	定期的に勉強会に参加しているものの、事故は突発的に起こるもので、その場に居合わせた時に、慌てないように、さらに、研鑽していく。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回利用者と共に避難訓練を実施。運営推進会議をきっかけに今年は、地域の方の参加があり、また、地域と合同の避難訓練も地区の方、協力の下で行えた。地震時の避難場所へも、散歩等兼ねて行っている。 (外部評価) 運営推進会議により、地域の人たちと避難訓練や災害対策について詳細に話し合いが持たれている。実際の訓練も行われており安心であるが、なによりも地域の人たちが利用者の状態をよく把握していることが心強い。	※	昨年5月より、2ヶ月毎に運営推進会議を実施。それに伴い、徐々にではあるが地域の方の協力が増えてきた。今後も地域の行事に参加しながら交流を持ち、協力を得られるように働きかけたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 拘束や鍵をかけないことに対するリスクについて、また、利用者の状態変化に伴うリスクについて、その都度、ご家族へ報告し、理解していただいている。	※	今後も、利用者一人ひとりが、自由な暮らしの中で、生き生きと安心して過ごせるように努める。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日、入浴前にはバイタルチェックを行い記録。また、普段の状況を職員は把握しており、顔色等様子に変化があれば、ご家族に報告し医療受診につなげている。	※	利用者一人ひとりの、体調の変化や異常を見逃さず、今後も早期発見、早期対応に努める。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の処方箋等、ケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているのかの確認をしている。また、看護職員と医療機関との連携を図るようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつに、繊維質の多い食材や乳製品をとり入れている。体操や散歩等、身体を動かす事を日課とし、自然排便出来るように取り組んでいるが、透析治療中の利用者に対しては、水分量に制限があり、下剤を服用している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。歯の状態が悪い利用者に対しては、ご家族に報告。職員付き添いにて、歯科受診する場合もある。	※	今後も、無歯の方の場合でも、毎食後は必ず、うがいやブラシ等使用し、口腔内の清潔保持に努めていく。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体である特養の管理栄養士が献立表を作成。その献立を基に食事づくりを行っている。利用者一人ひとりの状態により刻みにするなどの工夫をしている。摂取量や水分量は常に確認し栄養の偏りや水分不足に気を付けている。 (外部評価) 家庭的な食事の提供を意識しており、職員も自慢しているとおり美味しくバランスの良い食事が提供されている。運営法人の栄養士に相談しながら、栄養面の管理も十分になされている。糖尿病の利用者に対して醤油の使用量などをそれとなく見守るなど、安心感がある。	※	生き生きとした暮らしの中で、食事は重要な部分を占める。これからも、旬の食材を、美味しく、喜んで、食べていただく為の工夫を行っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 母体の特養で、感染症予防委員会があり、職員が参加しながら学んでいる。また、感染症に関して、情報収集を行い、早期対応に努めている。職員共に、インフルエンザ予防接種を受け、ノロウイルス対策として、個人タオルを使用している。また、病院用ハイターを使用している。	※	感染症予防に向けて、今後も、職場内研修会等で学び、情報を得ながら、早期対応に努める。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材の残りの点検を行いながら、買い物を、一日置きにしている。刺身などにそのまま利用する魚などは、その日に購入。食器は乾燥機使用し、まな板は日光消毒を行う等、清潔、衛生に充分配慮している。	※	今後も、職員全員が周知徹底して、衛生管理を行い、食中毒の予防に努める。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先に、季節ごとの花を植えたり、椅子やテーブルを置き、気軽に立ち寄れるような工夫を行っている。親しみやすく、ほっと一息つける暖かい場所としての工夫を行っている。	※	古民家としての良さを活かしながら、今後も、地域の方に、気軽に立ち寄っていただけるように、工夫をしていく。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 古い民家を活用している為、狭いが、利用者にとってなじみの空間の中、居間の飾り付けを一緒にしたり、草餅やソーメン流し、柚子湯や菖蒲湯、ご飯の炊ける匂い、好きな歌等、居心地よく過ごせるような工夫を行っている。 <hr/> <small>(外部評価)</small> 民家改修型ホームの特徴であるどこか懐かしさがあり、空間的に余裕があるわけではないが、ゆっくりできる。利用者の趣味の作品や行事の際の写真などの飾り付けなども、落ち着ける演出である。	※	今後も、五感や季節感を意識的にとり入れる工夫をし、利用者一人ひとりにとって、居心地の良い共用の空間づくりに努める。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間を共用の場とし、利用者同士の交流に役立てている。また、自室を利用し気ままに過ごして頂けるよう配慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分が長年使い愛着のある、鏡台や椅子、ダンス等をお部屋に置き、また、観葉植物等、ご家族が持ってこられた物を飾ったりして居心地よく暮らしていただけるような配慮をしている。 <hr/> <small>(外部評価)</small> 使い慣れたダンスや布団、家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせる居室への配慮は見受けられた。民家の和室をそのまま活用している部屋は、味わいのある雰囲気、タタミの上になつての昼寝が気持ちよさそうである。	※	今後も、共同生活の中にありながら、一人ひとりのプライバシーにも配慮した環境づくりを行っていく。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 食事づくりの煮炊きをする場合、換気扇を活用。また、居間に空気清浄機を設置。トイレに換気扇はないが、消臭剤を活用し臭気に対応している。室温も利用者の様子に合わせて、こまめに調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 古い民家を改修している為、利用者一人ひとりがすぐに馴染む事が出来、少しの段差や片方だけの手摺り等を利用し日常的な機能訓練としたり、その中で見守り、安全確保と自立への配慮をしている。	※	職員が手助けしながら、できるだけ自立した生活が送れるように今後も支援していく。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 古い民家を改修した造りの為、利用者にとってはなじみがあり、落ち着ける空間となっている。今のところ、混乱なく落ち着いた、生活を送っていただいている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭に季節ごとに花を植え、その花々を四季折々に楽しむことが出来るようにベンチ等を置いている。また、裏庭では野菜作りを行い、新鮮な旬の物を利用者と共に育てている。	※	今後は、庭で花壇を眺めながら、または、畑で、地域の方との気兼ねない交流を行えるようにしていきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の2/3くらい ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	日々の関わりの中で、言葉や表情または態度から、今、何をしたいのか、どんな思っているのか等、利用者一人ひとりの意向を把握している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	10時や3時のおやつの時間や食後にゆったりと会話を楽しみ、散歩の途中で川を泳ぐ鯉を眺めたり、テレビの時代劇を共に楽しんだり、毎日、ゆったり穏やかに過ごされている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が2/3くらい ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	居間と自室を行き来しながら、庭に出てベンチに座りただのんびりと、庭の草を引いたり、花を眺めたり、ソファに座り好きな時代劇を楽しんだり、食事作りを手伝ったりと、それぞれの利用者のペースで暮らしていただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が2/3くらい ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	「おかげで助かります。」「ありがとうございます。」そんな感謝の言葉かけにさえ、とても、いい笑顔で答えて下さる。本当に馴染みの関係の大切さがわかる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が2/3くらい ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	職員の声かけにより実施している。全員を毎日に、とはいかないが、散歩やドライブを楽しんでいただいている。また、車で1時間余りもかかる故郷へ誘い、ご近所の方々に涙を流して喜んでもらったこともある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が2/3くらい ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	健康管理や医療面に関しては、看護職員の配置もあり、利用者、ご家族共に安心していただいている。安全面においても、充分注意を払い、安心して過ごしていただけるように配慮している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が2/3くらい ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	利用者一人ひとりの思いにこたえられるように配慮しながら、支援している。その取り組みが、安心した暮らしへと繋がっていると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ①ほぼ全ての家族と2/3くらい ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	ご家族との会話は、常に持つように心がけている。不安や求めていることには、職員全員で話し合いながら対応し、ご家族と良い関係が築けていると感じている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように2回程度 ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	運営推進会議をきっかけに、地区の集会へも参加。そこから、少しずつではあるが地域の人達との交流が行えるようになった。また、ホームへの入居をきっかけに、遠慮がなくなり訪ねやすくなったと、度々来られる方もおられる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②) ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	昨年の5月に運営推進会議を開催。1年が経過し、その間にも集会等へも参加。地域の方との繋がりはずつと増えている。避難訓練でも地域の方の参加があり、意見等いただいている。
98	職員は、活き活きと働いている	① ① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員は、利用者との関わりが楽しいと、活き活きと働いている。利用者に寄り添い馴染みの関係をさらに築きながら、常に笑顔で頑張っていきたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の方が、職員に接する態度を観察すると、おおむね満足されているのではないと思う。職員の感謝の言葉かけに対して、「お礼を言わんといいけんのはこっちの方よ。」とか「いつもすまんね。」とか、言われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ① ほぼ全ての家族等が (自己 ②) ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族の方も、こんな風にしてくれたら、とか、なぜあんな態度をとるの、などと職員に対して不満をもたれている方がいるかもしれないが、おおむね満足していただいているのでは、と思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

## (自己評価)

古い民家を改装して造られている為、空間的には狭いが、利用者は、馴染みのある懐かしい場所と感じて生活しています。そんな暮らしは安心感を与え、表情にゆとりが生まれます。裏の畑での野菜作りや庭での花づくり、買い物や食事作り、テレビを見たり、散歩をしたり、どこのご家庭でも当たり前に行っている日常を過ごしています。職員は、同一法人内での研修会等に参加し研鑽しながら、利用者一人ひとりを支えています。また、地域との交流においては、昨年の5月より開催の運営推進会議がきっかけとなり、集会の参加や合同避難訓練等、地域の方との交流が少しずつではありますが、増えています。これからも利用者の方々には、教わる気持ちで接し、感謝の言葉を伝えながら、穏やかに過ごしていただけるように努めていきたいと思っております。